

大学改革としての事務改革

事務局の廃止と業務の改善

本学は、中期目標・中期計画の達成に向け、効率的かつ適確に業務を推進する仕組みとして、以下の観点から事務組織を抜本的に見直し、法人化以後の多様な変化に対応可能な体制を整備いたしました。

事務組織再編の観点

意志決定ラインの一元化

学長・役員会と一体になって業務を遂行する観点から、事務組織を総務、教育、国際・研究及び学術・情報の4機構長の直轄とし、指揮命令系統を一元化する。

戦略体制の整備

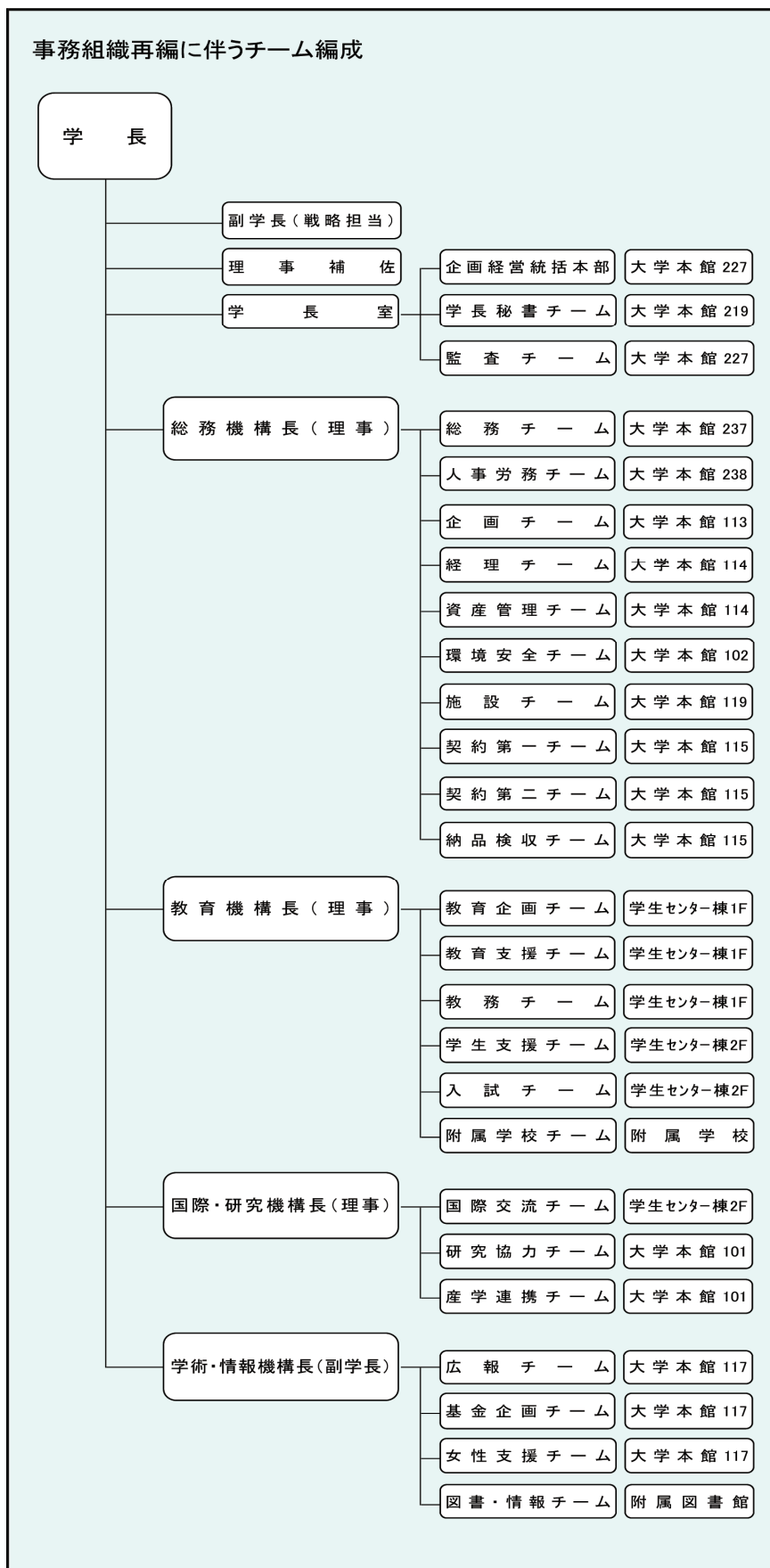
学長のスタッフラインを充実強化し学長室を整備する。

柔軟な組織構造と優れた人材の登用

業務の繁閑に応じて、より柔軟かつ機動的な対応が可能となるチーム制を導入する。
また、優れた人材をチームリーダーに登用する。

組織ミッションの明確化

共通業務の集約化し、職務権限を明確化して組織目標を共有化する。

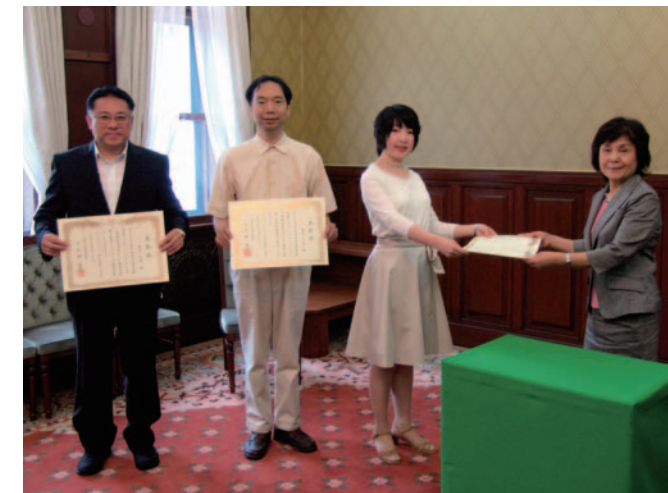


業務改善コンテスト

平成19年5月を業務改善月間として実施された「業務改善アイデアコンテスト」にて、総応募42件のなかから、学長表彰として下記の3件が選ばれ、6月25日に表彰式がおこなわれました。

なお、提案されたすべての内容について、今後、担当チームによる費用対効果などを精査して、実現に向けた検討を重ねることになりました

提案事項	アイデアの内容	応募者氏名・所属	
学内郵便番号の導入	学外からの郵便物の配布作業の軽減として、『学内郵便番号（建物・部局・部屋まで細分類し付す番号。例：理学部3号館408号室の場合、【S3-408】と表示）の導入』を提案する。	椎尾 一郎	大学院 人間文化 創成科学 研究科教授
掲示方法の改善	掲示板の掲示方法として、『期限の早い順に、上下、左右等、一定の方向に並べる法則』を提案する。このことにより、掲示物の取外しが容易となり、無駄な掲示物が減少することや、学生が見易くなり、掲示物を見落とさなくなること等利点は大きい。	栗原 瑶実	理学部 数学科3年
有償ボランティア制度の導入	通常業務では目が届きにくい建物等の周辺を、定期的に（週1回程度）巡回して、危険性の有無等を調査、報告し、可能な範囲で小修繕等を自ら行う『有償のボランティア制度の導入』を提案する。	通山 正年	副学長 (戦略担当)



大学改革としての事務改革

事務局の廃止と業務の改善